

(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業「勤務環境改善プロジェクト」報告)女性外科医を続けるために～チーム担当制で診療することの利点を考える～

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 美樹子, 永井, 絵林, 塚田, 弘子, 野口, 英一郎, 堀内, 喜代美, 岡本, 高宏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032310

では、我が国の勤務医の勤務環境の現状について情報共有を行い、自らのキャリアイメージについて考え、その実現のための課題について活発な意見交換を行いました。すなわち多様な働き方を可能にするための、研究・教育など診療以外に必要な時間の確保、短時間勤務を当たり前にする意識醸成、不公平感の是正などについて様々な視点で検討し、組織としてのテーマを設定しました。そして各テーマに関する取り組み計画を立案・作成し、ワーキンググループのメンバー自身がその計画に沿って勤務環境改善を実施してきました。

これまで本シンポジウムでは、女性医師・研究者のロールモデルである先生方から、ご自身が努力されたことや周囲の方々からのご協力などについて多様なキャリア形成の方法をご講義いただきました。今年度は、女性医師のキャリア形成のために各医局が組織として進めている取り組みをご報告いただきます。このような勤務環境改善プロジェクトにより、誰もが自身の理想とするキャリアイメージを実現できる環境が作られていくものと考えています。

女性外科医を続けるために～チーム担当制で診療することの利点を考える～

(乳腺内分泌外科) 藤本美樹子・
永井絵林・塚田弘子・
野口英一郎・堀内喜代美・岡本高宏

〔背景〕平成28年の全国の医師数は319,480人であり、女性医師数は67,493人(21.1%)と増加している。外科分野では女性医師の占める割合は7.1%と他診療科と比し低いものの、年代別にみると20代の医師に占める女性割合は20.8%と増加傾向である。結婚・出産・育児といったライフスタイルが変化すると、外科医を継続し働いていくことは困難となることが多い。現在、様々な学会で女性外科医が継続し働くための環境改善、医療者の意識改革を問題とし多くの場面で論じられている。当医局は全22名中13名が女性で構成されており、外科医局としては女性の占める割合は高く、結婚・出産後も継続し働ける環境づくりを模索している。当科ではチーム担当制をとっており、医局員の結婚や出産に際して欠員が出た場合でも、残りの医局員で役割を分担できることは利点であると考えている。〔課題〕働き方が多様化する現在、チームで動くことの利点を生かし生かせる人材の育成を行う。変容するライフスタイルを自身が受け入れ、また周囲が理解を示す組織風土を確実に継承していく。〔目標〕各人のスキルの確立。入局後の医師に対する教育制度の統一化。〔取組概要〕診療・教育・研究を3本柱とし、5年を目標に一定のスキルの確立を目指す。同様に5年で外科新専門医制度の取得を目指す。診療点に着目すると、検査、術前評価、手術を一定レベルまで到達できるよう

年数毎の到達目標を決定し、適宜フィードバックを行う。〔感想〕この研究が後輩たちへのメッセージとなるよう、ライフスタイルが変化しても医師を続けて自分の選んだ道を突き進めるように祈ります。自分自身もこれから、働き方が変化しても患者さんに寄り添いながら、外科道を精進して行こうと思います。

仕事の効率化を目的とした退院サマリー作成業務に関する工夫

(脳神経内科) 白井優香・関 美沙・
樋口瑛子・久保田愛・北川一夫

〔背景〕働き方改革が昨今取りざたされており、医療業界にもその流れが押し寄せている。医師の勤務内容を再度見直し、各々が定時の勤務時間内で仕事を終わらせるような工夫が要求されている。特に女性医師は家事や育児など家庭での役割も多く、時間外勤務が難しいことがしばしばあり、職場全体での改革が必要である。〔課題〕病棟勤務医の日常業務の負担軽減を推進するために、業務内容の見直しや工夫を行うこととした。日常業務としては、臨床、研究、教育と多岐に渡るが、その中でも臨床業務に割く時間は多く、その内容についてまず検討した。外来と病棟業務、各種書類作成、研修医の指導、退院サマリーの作成および指導、症例検討会の準備や指導などが挙げられたが、研修医側も指導医側も特にストレスを感じているのが退院サマリーの作成と指導であると考えた。包括医療費支払制度(DPC)により入院期間はより短くなっており、退院サマリーの作成と承認までの締め切りの期間も短く、そこに内容の充実性を求めると医師個人の裁量に任せすぎており、完成度が一貫しない。そのため、ある一定の基準以上の内容を含めた退院サマリーを研修医が作成でき、指導医の確認作業も軽減できるよう標準化する方法を検討した。〔目標〕研修医の退院サマリーの作成、および指導医の記載内容確認作業の簡略化を目指し、最終的に退院サマリーの内容の充実性の担保と期限内提出率の向上、および各医師のストレスが軽減するためのシステムを構築する。〔取組概要〕まず現状を把握する目的に研修医側、指導医側それぞれに退院サマリーの作成と指導に関するアンケートを実施した。その結果を踏まえて退院サマリーのフォーマットを見直し、新たなものを作成した。作成後、医局内でフォーマットの使用を周知し、チェックリストを作成して記載内容がフォーマットと相違ないか確認できるようにした。フォーマット使用後の研修医や指導医のストレス軽減や退院サマリーの期限内提出率について調べた。〔成果〕フォーマットが普及することで、研修医側、指導医側ともに退院サマリー作成に関する負担が軽減したと感じられるようになった。また退院サマリーの期限内提出率を向上することができた。また内容の充実性も担保さ